

令和7年度 大田区立新宿小学校 自己評価 報告書

令和8年3月26日

○ 本校の概要

児童数259名(全12学級)、教職員(校長・副校長各1、主幹教諭2、主任教諭4、教諭9、養護教諭1、臨時任用教諭1名)事務1、講師4、主事2ほか  
 ・目指す学校像「共に生きる」…他者と協働し、助け合うことの大切さを学ぶ。「自立する」…自分を知り、大切に。自分で学びの計画を立て、責任をもつ。「社会に目を向ける」…社会に一人として、地域を大切に、すすんで地域と関わる。  
 ・校内研究テーマ「自ら学びを調整しながら、資質・能力をはぐくむ児童の育成」に向けて、個別最適な学びや協働的な学びの一体的な充実と、ICTの効果的な活用を図る。  
 ・大田区漢字検定や東京ベースッドリル、AIDリル及び「漢字チャレンジ週間」「算数ステップアップ週間」等の取組を通して、基礎・基本の定着を図り、学力の向上に努める。  
 ・天然芝の校庭という恵まれた環境を生かし、地域・保護者と協働して芝生の維持管理に取り組む。また、学校地域支援本部とも連携し、地域人材を積極的に活用することで、こどもの豊かな学びと成長を支える。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価人数	コメント	
生予個性別 き測別 目力難 標をな1 育未 成来 社 会を 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	1	児童「学校ふり り返りアンケート」にて、「学習の振り返りを行い、自分の良さや課題に気付くことができる」・「学校の授業や家庭学習で日常的にタブレット端末を活用している」の質問に、肯定的な回答をした児童の割合80%	4: 80%以上	・教材研究を深め、指導者が自身の役割を明確化する。 ・学習計画表などを作成し、単元計画(単元デザイン)を可視化して児童に示す。 ・学習内容だけでなく、学び方についても振り返りを行わせる。 一研修で今年度中にまとめを行い、次年度の【新宿スタイル】として示す。	A	6	予測困難な未来社会を創造的に生きる力の育成については、学習発表会での各学年の発表の様子や、地域活動「ジュニアリーダー講習会」における卒業生の姿からも、主体的に考え、役割を引き受け、他者と協力しながら行動する力が着実に育っていることがうかがえる。特に、学習の成果を自分の言葉で説明したり、質問に対して落ち着いて答えたりする姿は、日々の授業の中で培われた見通しをもった学びや、対話的な学習の積み重ねによるものであり、高く評価できる。 また、こみ問題の学習のように、身近な課題を取り上げ、子どもたちが地域や社会の未来を考えている点も、本目標に合致している。 一方で、災害等に関する御意見にあつたように、「誰かがやってくれる」ではなく、「自分たちに何が出来るか」を考える力は、これからますます重要になる。避難訓練や防災学習も、単なる訓練にとどめず、その先にある生活再建や地域の支え合いまで視野に入れた学びへと深めていくことが期待される。今後とも、地域とのつながりを生かしながら、子どもたちの主体性と実践力をさらに育ててほしい。
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 70%以上				
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 60%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 60%未満				
お世個別 と目 を標 担な2 うが 人 材を 際 育都 成市 し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話を増やす機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	児童「学校ふり り返りアンケート」にて、「自分たちの住んでいる町はよい町である」、保護者「学校評価アンケート」にて、「学校は、地域の特色を生かした教育活動を積極的に行っている」質問に、肯定的な回答をした割合80%	4: 80%以上	・イングリッシュカフェの活動は充実しているが、参加児童が毎回固定化してきている。外国語に触れる機会を増やすために、ランチタイム等の検討をする。 ・掲示物などの工夫を通して、学習環境を整える。【外国語教育】  ・生活科、社会科、総合的な学習の時間(スマイル)、おたの未来づくり等、各学年の発達段階に応じた学習を系統的に進めていく。5、6年生の総合は、おたの未来づくり以外にもう一つの柱となる学習活動を計画する。なお、移動教室は総合で調べ学習などをとするのではなく、特別活動に位置付けて現地での過ごし方などの事前学習、準備、事後指導を行う。 ・「何のために行くのか」「どのような力が身に付くのか」ということを念頭に置いた上で、こどもたちの自発的な活動から、学習を進められるようにする。 【総合・おたの未来づくり】  ・集会や学級で季節に合わせたイベントなどを行う。 ・季節に合わせた給食のメニューや、地域、国などの給食のメニューが出るときは、お昼の放送だけでなく、その週の全校朝会で給食委員会の児童が発表を行ったり、掲示物を作成したりするなど、児童の活動を広げている。 【特別活動】  地域や社会への関心を高める取組が一定の成果をあげていることが、児童・保護者・教員のアンケート結果から確認できた。今後は、学びを自分事としてとらえ、行動や実生活につなげる工夫や学年を通じた系統性の整理、保護者・地域への発信の充実を図っていく。	A	6	世界とつながる国際都市おたを担う人材の育成については、地域学習と外国語学習の双方において、子どもたちの視野を広げる取組が進められていることが感じられる。地域探検や芝居のように、自分たちの住むまちや地域の人と直接関わる学習は、地域への親しみや愛着を育てるだけでなく、社会とのつながりを実感する機会にもなっている。 また、学校公開で見られた「世界の挨拶言葉」などの学習は、他国の文化や言語への関心を自然に高めるものであり、国際理解の入り口として意義深い。英語教育については、正確さだけでなく、相手の話を聞き取り、身振り手振りも含めて相手とつながろうとする姿勢が大切であるという指摘もある。今後は、英語を「正しく話すこと」に偏るのではなく、コミュニケーションの楽しさや必要感を味わわせながら、多様な文化や価値観に触れる機会をさらに充実させていくことが望まれる。地域を知り、地域に関わり、さらにその先にある世界へと目を向けていく学びの流れを、今後も大切にしてほしい。
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 70%以上				
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 60%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 60%未満				
た一人 別の 目 標 礎 り3 が な 個 性 力 と 能 育 力 成 を 発 揮 す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通して継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	児童「学校ふり り返りアンケート」にて、「休み時間などに体を動かしている」、保護者「学校評価アンケート」にて、「学校は、児童の体力向上を目指した取り組みを展開している」の質問に、肯定的な回答をした割合80%	4: 80%以上	・家庭学習や宿題についてのOJTを月中に開催する。 ・1年生は基礎基本の定着の為、音読、計算、漢字を繰り返し毎日取り組む。2～6年生は、期間や期限を決めてまとまった形で家庭学習や宿題を出し、自己調整を促す。(内容はクラスによる) 【研究推進】  ・休み時間の学年ごとの使用場所の指定の徹底。 ・年間を通して体力テストの種目を実施して、体力向上を目指す。(体育委員会企画) 【保健生活】  ・タブレットを活用して基礎的・基本的な学習を推進していることを発信する。基礎基本に課題がある児童にはタブレットでの学習状況を面談で個別に伝える。 ・放課後補習教室一学年を指定せず、内容を提示して行う。(四則計算筆算など…) 【研究推進】  ・図書室のレイアウトを一部変更し、過ごしやすい環境を作る。 ・読み聞かせ活動を子ども同士で行うなど、特別活動やふれあい班活動、委員会活動の充実。 【特別活動】  授業の分りやすさや教師の関わりに対して、児童・保護者・教員の評価が概ね一致しており、一定の成果が確認できた。今後は、児童一人一人の理解をより的確に見取り、指導の工夫や教師の関わりを学校全体で共有しながら、学びの定着と深まりを図っていく。学びと生活の基礎となる取組が一定の成果を上げていることが確認できた。一方で、家庭学習や生活習慣に関するねらいや取組が十分に共有されていない部分も見られた。今後は、家庭と連携しながら、目的意識した学習習慣や生活の振り返りを充実させていく。	A	7	一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力の育成については、学力・体力・読書・生活習慣など、子どもたちの土台づくりを支える取組が着実に進められていることがうかがえる。特に、休み時間の使い方の工夫や読み聞かせの新しい試みなど、既存の形にとまらず新しい方法に挑戦している点は評価できる。 また、学習発表会で見られた「子どもたちが基礎的、資料を作り、自分の言葉で発表する姿」は、基本的な力が単なる知識の定着ではなく、自立した表現につながることで感じられる。さらに、運動や競技を通して、他者を尊重することや粘り強さを育てるという視点も重要であり、学力と体力を別々に捉えるのではなく、人間形成全体の基盤として考えていく必要がある。 一方で、教室でも校庭でものびのびと過ごしている様子が見られるものの、すべての子どもにとってそうであるかは丁寧に見取っていく必要がある。今後は、取組を継続し習慣化することで、子どもたちの行動としてより確かに定着させ、年間を通して人格形成の基礎を育んでいくことを期待したい。
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 70%以上				
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 60%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 60%未満				
②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	児童「学校ふり り返りアンケート」にて、「休み時間などに体を動かしている」、保護者「学校評価アンケート」にて、「学校は、児童の体力向上を目指した取り組みを展開している」の質問に、肯定的な回答をした割合80%	4: 80%以上	・家庭学習や宿題についてのOJTを月中に開催する。 ・1年生は基礎基本の定着の為、音読、計算、漢字を繰り返し毎日取り組む。2～6年生は、期間や期限を決めてまとまった形で家庭学習や宿題を出し、自己調整を促す。(内容はクラスによる) 【研究推進】  ・休み時間の学年ごとの使用場所の指定の徹底。 ・年間を通して体力テストの種目を実施して、体力向上を目指す。(体育委員会企画) 【保健生活】  ・タブレットを活用して基礎的・基本的な学習を推進していることを発信する。基礎基本に課題がある児童にはタブレットでの学習状況を面談で個別に伝える。 ・放課後補習教室一学年を指定せず、内容を提示して行う。(四則計算筆算など…) 【研究推進】  ・図書室のレイアウトを一部変更し、過ごしやすい環境を作る。 ・読み聞かせ活動を子ども同士で行うなど、特別活動やふれあい班活動、委員会活動の充実。 【特別活動】  授業の分りやすさや教師の関わりに対して、児童・保護者・教員の評価が概ね一致しており、一定の成果が確認できた。今後は、児童一人一人の理解をより的確に見取り、指導の工夫や教師の関わりを学校全体で共有しながら、学びの定着と深まりを図っていく。学びと生活の基礎となる取組が一定の成果を上げていることが確認できた。一方で、家庭学習や生活習慣に関するねらいや取組が十分に共有されていない部分も見られた。今後は、家庭と連携しながら、目的意識した学習習慣や生活の振り返りを充実させていく。	B	4			
	3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 70%以上						
	2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 60%以上						
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 60%未満						
③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	1	児童「学校ふり り返りアンケート」にて、「休み時間などに体を動かしている」、保護者「学校評価アンケート」にて、「学校は、児童の体力向上を目指した取り組みを展開している」の質問に、肯定的な回答をした割合80%	4: 80%以上	・家庭学習や宿題についてのOJTを月中に開催する。 ・1年生は基礎基本の定着の為、音読、計算、漢字を繰り返し毎日取り組む。2～6年生は、期間や期限を決めてまとまった形で家庭学習や宿題を出し、自己調整を促す。(内容はクラスによる) 【研究推進】  ・休み時間の学年ごとの使用場所の指定の徹底。 ・年間を通して体力テストの種目を実施して、体力向上を目指す。(体育委員会企画) 【保健生活】  ・タブレットを活用して基礎的・基本的な学習を推進していることを発信する。基礎基本に課題がある児童にはタブレットでの学習状況を面談で個別に伝える。 ・放課後補習教室一学年を指定せず、内容を提示して行う。(四則計算筆算など…) 【研究推進】  ・図書室のレイアウトを一部変更し、過ごしやすい環境を作る。 ・読み聞かせ活動を子ども同士で行うなど、特別活動やふれあい班活動、委員会活動の充実。 【特別活動】  授業の分りやすさや教師の関わりに対して、児童・保護者・教員の評価が概ね一致しており、一定の成果が確認できた。今後は、児童一人一人の理解をより的確に見取り、指導の工夫や教師の関わりを学校全体で共有しながら、学びの定着と深まりを図っていく。学びと生活の基礎となる取組が一定の成果を上げていることが確認できた。一方で、家庭学習や生活習慣に関するねらいや取組が十分に共有されていない部分も見られた。今後は、家庭と連携しながら、目的意識した学習習慣や生活の振り返りを充実させていく。	C	4			
	3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 70%以上						
	2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 60%以上						
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 60%未満						
④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	1	児童「学校ふり り返りアンケート」にて、「休み時間などに体を動かしている」、保護者「学校評価アンケート」にて、「学校は、児童の体力向上を目指した取り組みを展開している」の質問に、肯定的な回答をした割合80%	4: 80%以上	・家庭学習や宿題についてのOJTを月中に開催する。 ・1年生は基礎基本の定着の為、音読、計算、漢字を繰り返し毎日取り組む。2～6年生は、期間や期限を決めてまとまった形で家庭学習や宿題を出し、自己調整を促す。(内容はクラスによる) 【研究推進】  ・休み時間の学年ごとの使用場所の指定の徹底。 ・年間を通して体力テストの種目を実施して、体力向上を目指す。(体育委員会企画) 【保健生活】  ・タブレットを活用して基礎的・基本的な学習を推進していることを発信する。基礎基本に課題がある児童にはタブレットでの学習状況を面談で個別に伝える。 ・放課後補習教室一学年を指定せず、内容を提示して行う。(四則計算筆算など…) 【研究推進】  ・図書室のレイアウトを一部変更し、過ごしやすい環境を作る。 ・読み聞かせ活動を子ども同士で行うなど、特別活動やふれあい班活動、委員会活動の充実。 【特別活動】  授業の分りやすさや教師の関わりに対して、児童・保護者・教員の評価が概ね一致しており、一定の成果が確認できた。今後は、児童一人一人の理解をより的確に見取り、指導の工夫や教師の関わりを学校全体で共有しながら、学びの定着と深まりを図っていく。学びと生活の基礎となる取組が一定の成果を上げていることが確認できた。一方で、家庭学習や生活習慣に関するねらいや取組が十分に共有されていない部分も見られた。今後は、家庭と連携しながら、目的意識した学習習慣や生活の振り返りを充実させていく。	D	4			
	3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 70%以上						
	2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 60%以上						
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 60%未満						
⑤体育の授業や休み時間などを通して、児童の運動習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	児童「学校ふり り返りアンケート」にて、「休み時間などに体を動かしている」、保護者「学校評価アンケート」にて、「学校は、児童の体力向上を目指した取り組みを展開している」の質問に、肯定的な回答をした割合80%	4: 80%以上	・家庭学習や宿題についてのOJTを月中に開催する。 ・1年生は基礎基本の定着の為、音読、計算、漢字を繰り返し毎日取り組む。2～6年生は、期間や期限を決めてまとまった形で家庭学習や宿題を出し、自己調整を促す。(内容はクラスによる) 【研究推進】  ・休み時間の学年ごとの使用場所の指定の徹底。 ・年間を通して体力テストの種目を実施して、体力向上を目指す。(体育委員会企画) 【保健生活】  ・タブレットを活用して基礎的・基本的な学習を推進していることを発信する。基礎基本に課題がある児童にはタブレットでの学習状況を面談で個別に伝える。 ・放課後補習教室一学年を指定せず、内容を提示して行う。(四則計算筆算など…) 【研究推進】  ・図書室のレイアウトを一部変更し、過ごしやすい環境を作る。 ・読み聞かせ活動を子ども同士で行うなど、特別活動やふれあい班活動、委員会活動の充実。 【特別活動】  授業の分りやすさや教師の関わりに対して、児童・保護者・教員の評価が概ね一致しており、一定の成果が確認できた。今後は、児童一人一人の理解をより的確に見取り、指導の工夫や教師の関わりを学校全体で共有しながら、学びの定着と深まりを図っていく。学びと生活の基礎となる取組が一定の成果を上げていることが確認できた。一方で、家庭学習や生活習慣に関するねらいや取組が十分に共有されていない部分も見られた。今後は、家庭と連携しながら、目的意識した学習習慣や生活の振り返りを充実させていく。	D	4			
	3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 70%以上						
	2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 60%以上						
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 60%未満						

